

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 中川 龍一 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元科学技術庁金属材料技術研究所所長、元川崎製鉄株式会社顧問、元静岡理工科大学学長中川龍一博士のご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は昭和22年に東京帝国大学第一工学部冶金学科を卒業、直ちに商工省機械試験所に入所、31年に科学技術庁金属材料技術研究所が設立されるや同所に出向、34年熱処理研究室長、特殊鋼研究室長、工業化第一研究室長を経て、45年工業化研究部長、金属加工研究部長を歴任、57年10月に所長に就任、平成元年6月に退官されました。元年7月から6年6月まで川崎製鉄(株)の顧問、7年4月から10年8月まで静岡理工科大学学長に就任。平成4年5月より現在まで金属材料技術研究所(現在は独立行政法人物質・材料研究機構)顧問。

研究においては、耐熱鋼分野と鉄鋼精錬分野での新プロセス開発研究とに数多くの基礎研究実績と先駆的成果を挙げました。

耐熱鋼の分野では、オーステナイト系耐熱鋼の基礎研究を総合的に行い、18Cr-10Ni系ステンレス鋼の高温強度と耐食性に及ぼす合金元素の役割を系統的に明らかにし、Mo、Nなどの相互作用を利用して優れた耐熱鋼を開発されました。この研究は二相ステンレス鋼に関する先駆的研究の役割を果たし、我が国のこの分野の発展に大きく貢献しました。

鉄鋼精錬の分野では、工程の高効率化、省エネルギー、省力化、製品の安定化のために連続化が時代の要請であり、困難視されていた製鋼工程の連続化に取り組み、基礎研究に基づき革新的な多段階型連続製鋼法を開発しました。本法は製鋼反応の分離とその制御性に特に優れ、極低燐鋼等高品質な鉄鋼の製造に必要な溶銑予備処理法の発展に大きな波及効果を与えました。さらに、この技術を発展させ、将来の資源循環型社会に備えて開発した自動車スクラップを原料とする連続製鋼技術は、パイロットプラントによる実用化試験で成功を修めました。

以上の業績により、本会から昭和40年に渡辺義介記念賞、昭和60年に野呂賞、昭和63年に西山賞、平成12年に製鉄功労賞を受賞し、平成7年に名誉会員に推挙されました。また、昭和57年には日本金属学会から功績賞、昭和60年に紫綬褒章、平成7年に勳二等瑞宝章を受章されました。

また氏は本会の理事2期を歴任し、研究委員会委員長、西山記念講座小委員長、日本・中国鉄鋼学術会議実行委員長、鉄鋼技術情報センター運営委員会委員長を務めるなど本会事業の発展に大きく貢献されました。

氏が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成13年11月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 王寺睦満